

地域と学校の協働が子どもを育む

～川崎市「地域の寺子屋事業」を事例として～

地域と学校が協働で子どもの学習・成長を支援するための方法を、さまざまな角度から検討します。川崎市の先進的な事業である「地域の寺子屋事業」を事例に取り上げ、コメンテーターには文部科学省の最新の政策動向をふまえた展望を話していただきます。



日時:平成28年9月4日(日)午後1時～3時30分
(午後0時30分受付開始)

場所:日本女子大学西生田キャンパス B棟15番教室
〒214-8565 神奈川県川崎市多摩区西生田 1-1-1

- 対象:川崎市民及び近隣にお住まいの方、教育関係者、行政関係者など
- 参加費:無料
- 定員:100名
- お申込み:事前申込み不要。直接会場にお越しください。
- お問合せ:日本女子大学人間社会学部教育学科
田中雅文研究室(044-952-6879・6870/月・木・金 10:00~16:00)
田中雅文携帯(090-5533-2316) E-mail:mtanaka@fc.jwu.ac.jp

報告者

- ◆片山 美緒(川崎市教育委員会事務局生涯学習推進課
地域教育・寺子屋事業推進担当係長)
「川崎市『地域の寺子屋事業』の特色」
- ◆大下 勝巳(NPO 法人かわさき創造プロジェクト代表理事)
「NPO 法人型の事例ー『遊びと学びの寺子屋』ー (川崎市立中野島小学校)」
- ◆金田 幸子(中原区寺子屋ネットワーク)
「地域ネットワーク型の事例ー『寺小屋すみよし』ー (川崎市立住吉小学校)」

コメンテーター

- ◆貝ノ瀬 滋(政策研究大学院大学/内閣官房教育再生実行会議委員)

司会

- ◆田中 雅文(日本女子大学教授)

川崎市の「地域寺子屋事業」とは

川崎市では2015年度から「地域の寺子屋事業」をスタートさせました。これは、毎週提供する放課後の学習支援教室と、月1回週末に開催する体験学習・世代間交流を組み合わせたものです。市民活動団体に企画・運営を委ねることによって、市民主体で地域と学校の協働を推進するための先進的な試みといえます。企画・運営は、NPO法人によるもの（NPO法人型）、地域の関係機関・住民等のネットワーク組織によるもの（地域ネットワーク型）などさまざまです。

公開シンポジウムでは、この「地域の寺子屋事業」の枠組と実際の実践、そして課題と将来展望を考察することを通して、今後の地域学校協働のあり方を検討します。

講師プロフィール

片山 美緒（川崎市教育委員会事務局生涯学習推進課地域教育・寺子屋事業推進担当係長）

2000年川崎市役所に入庁。市民館での社会教育振興事業の推進、かわさき教育プランの策定、市内大学との連携など社会教育・生涯学習に関する仕事に数多く携わり、地域の寺子屋事業には立ち上げから関わっている。2011年社会教育主事資格取得。

大下 勝巳（NPO法人かわさき創造プロジェクト代表理事）

1982年、川崎市教育委員会主催「父親学級」に参加し、その仲間とおやじの会「いたか」を結成。2005～2008年、川崎市宮前区長（初の民間人区長）。2009年にはNPO法人かわさき創造プロジェクト代表理事に就任し、さまざまな地域事業に取り組んでいる。

金田 幸子（中原区寺子屋ネットワーク）

横浜市出身、2男2女の母。川崎市立住吉小学校のPTA会長を2年務め、2010年12月、主任児童委員を委嘱される。地域で児童福祉に関わる役割を担うかわら、「おと絵がたり」の活動にも取り組んでいる。寺子屋すみよし代表。

貝ノ瀬 滋（政策研究大学院大学／内閣官房教育再生実行会議委員）

東京都公立学校教諭、三鷹市教育長を経て現職。コミュニティ・スクール、地域学校協働に関し、各方面で講師・助言者を務める。著書は『校長の実践経営術 25 の鉄則』、『小・中一貫コミュニティ・スクールのつくりかた』など多数。

田中 雅文（日本女子大学教授）

三井情報開発（株）総合研究所、国立教育研究所を経て現職。ボランティア活動と学習の相互関係に興味をもっている。居住地の武蔵野市では雑木林の保全活動に取り組んでいる。著書は『ボランティア活動とおとなの学び』など多数。

交通案内

日本女子大学西生田キャンパス

（会場は人間社会学部のB棟 15 番教室です）

〒214-8565 神奈川県川崎市多摩区西生田 1-1-1

〔小田急線〕読売ランド前駅下車 徒歩約 15 分

〔京王線〕京王稲田堤駅下車 小田急バス（生田営業所行）10 分

日本女子大前バス停下車

京王よみうりランド駅下車 小田急バス（寺尾台団地行）15 分

日本女子大前バス停下車

〔南武線〕稲田堤駅下車 小田急バス（生田営業所行）15 分

日本女子大前バス停下車

